



地域社会とともに
開かれた矯正へ

刑事施設における特別改善指導

薬物依存離脱指導

■ 指導の目標

薬物依存の認識及び薬物使用に係る自分の問題を理解させた上で、断薬への動機付けを図り、再使用に至らないための知識及びスキルを習得させるとともに、社会内においても継続的に薬物依存からの回復に向けた治療及び援助等を受けることの必要性を認識させること。

- 対象者 麻薬、覚せい剤その他の薬物に対する依存がある者
- 指導者 刑事施設の職員（法務教官、法務技官、刑務官），処遇カウンセラー（薬物担当），民間協力者（民間自助団体等）
- 指導方法 グループワーク，民間自助団体によるミーティング，講義，視聴覚教材，課題学習，討議，個別面接 等
- 実施頻度等 1単元60～90分 全2～12単元 標準実施期間：1～6か月※
※ 薬物への依存の程度，再使用リスク等に応じて，必修プログラムのほか，専門プログラム・選択プログラムを組み合わせる実施。

カリキュラム

項目	指導内容
はじめに	プログラム概要を説明し，受講意欲を高めさせる。
薬物使用の影響	薬物を使用することの利点と欠点について考えさせることで問題意識を持たせる。
引き金に注意	薬物使用につながる「外的引き金」，「内的引き金」を具体化させ，自分の薬物使用の 패턴の流 れについての理解を深めさせる。
再使用の予測と防止①	薬物を使用していた行動・生活パターンに戻ってしま う「リラプス」の兆候に気付き，対処する必要があることを理解させ，自分自身の「リラプス」の兆 候及び対処方法を具体的に考えさせる。
再使用の予測と防止②	回復途中に感じる「退屈さ」が「引き金」になるこ とに気付かせ，スケジュールを立てることの大切さ を理解させる。回復過程においては，ストレスの自 覚と適切な対処が大切であることを理解させ，具体 的な対処方法を考えさせるとともに実行を促す。
活用できる社会資源	社会内で断薬を継続するための支援を行う専門機関 についての情報を提供するとともに，民間自助団体 の活動を紹介し，その内容について理解させる。
おわりに	「再使用防止計画書」を作成させ，自分にとっての リラプスの兆候や引き金となる事象，それらへの対 処方法について具体的にまとめさせる。
必修	項目及び指導内容については，専門プログラムから項目 を選択し，各項目の指導内容に準じた内容とする。

項目	指導内容
オリエンテー ション	プログラムの概要を説明し，目的とルールについて理解させる。薬物 を使用することの利点と欠点について考えさせることで問題意識を持 たせ，受講意欲を高めさせる。依存症とは何かを理解させる。
薬物使用の流 れ	薬物依存がどのように形成されるのかを理解させ，入所前の自分の状 態を振り返らせる。「引き金」とは何かを理解させ，薬物使用に至る 流れに関する知識を身に付けさせる。
外的引き金	薬物使用につながる「外的引き金」を具体化させ，自分の薬物使用の パターンについての理解を深めさせる。
内的引き金	自分の薬物使用につながる「内的引き金」を具体化させ，自分の薬物 使用の pattern や流れについての理解を深めさせる。
回復段階	薬物依存からの回復の段階における特徴的な心身の状況を理解させ， 回復に対する見通しを持たせる。
リラプスの予 測と防止	「リラプス」とは，薬物を使用していた行動・生活パターンに戻って しまうことであり，再使用防止のためには「リラプス」の兆候に気付 き，対処する必要があることを理解させ，自分自身の「リラプス」の 兆候及び対処方法を具体的に考えさせる。
いかりの網	再使用には前兆があることを気付かせ，再使用に至らないための方法 を具体的に考えさせる。所内生活において，それらの対処方法を実践 するよう促す。
退屈	回復途中に感じる「退屈さ」が「引き金」になることに気付かせ，ス ケジュールを立てることの大切さを理解させる。
社会内のサポ ート-自助グ ループとは	社会内で断薬を継続するための支援を行っている専門機関についての 情報を提供するとともに，民間自助団体の活動を紹介し，その内容に ついて理解させる。
仕事と回復	仕事は回復にどのような影響を及ぼすかを理解させ，両者のバランス を取ることの大切さを認識させる。
再使用防止計 画書	「再使用防止計画書」の発表を通じて，これまで学習してきた内容を 確認しながら，自分にとってのリラプスの兆候や引き金となる事象， それらへの対処方法について具体的にまとめさせる。また，他の受講 者からのフィードバックや発表を聞くことで，それまでの自分にな かった新たな気づきを得る機会を提供する。
まとめ	回復過程に必要なことは，意志の強さではなく，賢い対処であることを 理解させるとともに，これまでのセッションで学んできた効果的な 対処方法が身に付いてきているかを受講者本人に確認させる。

ダルク・NAとの連携



※ ダルク（DARC）：覚せい 剤等の薬物から解放されるた めのプログラムを持つ民間の薬 物依存症リハビリ施設。

※ NA（ナルコティクス・アノ ニマス）：薬物依存症からの回 復を目指す人たちのための自助 グループ。

刑事施設における薬物依存離脱指導の実施体制

- 刑の一部の執行猶予制度の施行を踏まえ、保護観察所と同様、認知行動療法の手法を取り入れたプログラムを導入
- 受刑者個々の問題性やリスク、刑期の長さ等に応じ、各種プログラムを組み合わせる実施

必修
プログラム

薬物依存回復プログラム12回分のセッションをコンパクトにまとめたDVD教材「リカバリー・ポイント」
+
DVD教材の内容について学習を進められるワークブック

専門
プログラム

薬物依存回復プログラム
【12回】

選択
プログラム

教育担当職員によるグループワーク

民間自助団体によるミーティング

DVD等の補助教材の視聴

面接
個別指導等

更生保護官署との情報連携体制の強化

課題

- 薬物事犯者の多くは、犯罪者であると同時に薬物依存の問題を抱える者でもある
- 薬物事犯者の再犯防止対策は、施設内処遇だけでは困難

対策

刑事施設

- 薬物依存離脱指導の実施結果等の情報
 - ・断薬への動機付け
 - ・再使用防止スキルの獲得
 - ・地域支援に関する理解
- 心身の状況、服薬状況等の医療情報

保護観察所

- 薬物再乱用防止プログラムへの活用
 - ・薬物検出検査の実施
 - ・再使用防止スキルの実践
 - ・地域支援への移行
- 医療情報の活用

○地域社会の保健医療福祉機関、自助グループ等の協力による息の長い支援に向けた体制整備

処遇情報等の確実な引継ぎによる一貫性のある指導・支援・治療の実現



地域社会とともに開かれた矯正へ

少年院における「薬物非行防止指導」

少年矯正を考える有識者会議(平成22年12月7日)

少年院における矯正教育の内容・精度を向上させるため、施設ごとの教育課程の一層の特色化に努め、その一方策として、非行態様別の指導重点施設を指定するなどの取組が有効であることが提言された。

再犯防止に向けた総合対策 (平成24年7月20日犯罪対策閣僚会議決定)

- (1)薬物依存の問題を抱える者に対しては、個々の再犯リスクを適切に把握した上で、そのリスクに応じた専門的指導プログラムを実施できる態勢を強化する。
- (2)家族等に対し、薬物依存者への対応等に関する理解を深めさせ、適切な対応力を付与する。

薬物非行防止指導

- 男子少年院2庁・女子少年院9庁を重点指導施設に指定して実施 (平成27年度)
- 対象者
麻薬、覚醒剤その他の薬物に依存等がある者
- プログラム内容
少年指導用プログラムと保護者向けプログラムで構成
- 民間協力者等との連携
民間自助団体(ダルク), 医療関係者等, 薬物問題に関する専門家等からの協力
- 実施結果
更生保護官署(保護観察所等)への情報提供

中核プログラム

- 実施単元 : 12単元
- 指導形式 : グループワーク指導又は個別指導
- 指導内容

指導単元	指導内容
第1回	薬物をやめることに挑戦してみましょう
第2回	依存と回復
第3回	引き金と欲求
第4回	あなたのまわりにある引き金について
第5回	あなたのなかにある引き金について
第6回	再発を防ぐために
第7回	再使用のいいわけ
第8回	薬物使用とアルコール
第9回	新しい生活のスケジュールを立ててみよう
第10回	「強くなるより賢くなれ1」
第11回	「強くなるより賢くなれ2」
第12回	回復のためにー信頼と正直さ

※ 認知行動療法をベースとした内容 (主に医療機関で実施しているSMARPPを参考)



グループワークの実施

少年指導用プログラムの概要

項目	指導目標・内容等	指導方法
中核プログラム (必須)	認知行動療法を基礎とするワークブック(J.MARPP)を用いた指導	○J.MARPPを用いたグループワーク又は個別指導
(周 辺 プ ロ グ ラ ム を 選 択 し て 実 施)	主として背景要因に焦点を当てた指導	○対人スキル指導 ○家族問題指導 ○アサーションを中心とした対人トレーニング ○固定メンバーによる継続的な集会(ミーティング) ○個別面接指導
	主として問題行動(薬物使用)に焦点を当てた指導	○自律訓練法, 呼吸法 ○アングーマネージメント ○マインドフルネス ○リラクゼーション
	主として生活設計に焦点を当てた指導	○進路指導 ○余暇の過ごし方(薬物以外の楽しみ探し)指導 ○固定メンバーによる継続的な集会(ミーティング) ○民間自助グループ講話
フォローアップ指導	中核プログラムの確認(復習・自己統制計画の見直し)	○J.MARPPを用いた個別指導

保護者用プログラムの概要

- 実施単元 : 2単元
- 指導形式 : 保護者会にて実施
- 指導内容

指導単元	指導内容
第1回	薬物依存症とは
第2回	お子さんへのかかわり方

※ 保護者へ副読本を配布



保護者会